①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・10までのものの個数を数で表すことができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・並んでいる物を，端から数える経験をしている。

≪学習問題≫

くだものが7こならんでいます。みかんのあるばしょを

ことばでおしえたいけれど，どうやってつたえればいいのかな。

教材研究ノート№1-B-1

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 「りんごの右」「りんごとさくらんぼの間」と表しても，全体の中でのりんごの位置が伝わらない。

→「左から数えて何番目」と言えばよさそうだ。

②学習課題:「左から数えて何番目」という表し方を使って，みかんの位置の表し方を考えよう。

③個人追究:左から数えて何番目になるか，表し方を考える。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（解法の比較検討）

「みかんは，左から数えると何番目と表せばいいかな？」

→「ぶどうは左から1番目だから，みかんは左から3番目。」

④共同追究後半（思考を深める）

「右からだと5番目だけれど，同じ場所と言えるのかな？」

→「右から数えれば，別の表し方ができる。右から考えると，みかんは5番目。」

「ものの位置は，「左・右」といった方向や位置を表す言葉を変えれば，何番目の表し方が変わる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・ものの位置は，「どこから何番目」と表せば伝えられる。

・左や右など，「どこから」数えるかによって，何番目という表し方が変わる。

⑥定着･活用問題

いろいろなくだものが　したのようにならんでいます。

1. さくらんぼは，

左から　 ばんめ・上から　 ばんめ。

1. すいかは，どこからなんばんめ

ですか。

 から　 ばんめ・ から ばんめ。

うえ

****

ひだり

みぎ

****

した

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・「左から何番目」の表し方については，「一番左にあるものは，左から何番目なのか」考える場を設け，「左から１番目」であることを共通基盤にして表し方を考えたい。

・方向や位置を表す言葉には，「右・左」の他にも「上・下」といった言葉があることに気づくことができるような定着・活用問題を用意したい。

【板書計画】